

第一回核不拡散科学技術フォーラムで頂いた機構の核不拡散活動に対するご提言と機構の対応

(1) 原子力機構の核不拡散戦略について

機構の核不拡散戦略をご説明し、各機能についてご意見、ご提言を頂いた。

ご意見・ご提言	機構の対応
<p><u>技術開発</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構の目指す原子力平和利用における国際貢献は大事であるが、特に核不拡散技術の開発を通じた貢献については期待する。 ・ 原子力技術の開発においては、日本は独自の方針を立て、ブレない長期的な開発を進めるべき。 <p><u>人材育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学での核不拡散に関する教育の実施等の制度的な充実に加え、その後の国際機関での活躍等を含めて、good example を積み上げられるようオールジャパン体制での協力が必要。 ・ 優れた人材を受け入れる場が少ない。国際機関からの帰任者等についても同様である。国際機関での高いポストを目指すためには、国内と国際機関で交互に経験を積ませていくアプローチが必要であり、このために国内の関係機関が連携協力することが必要。 ・ この分野においてどのくらいの人数が不可欠かを念頭において進めるべきである。 ・ 産業界においても、原子力の技術を持って海外進出する場合には核不拡散の人材養成が必要。 ・ 技術的な側面と政策的な側面の双方からアプローチできるマルチな人材育成が必要である。 <p><u>政策支援・シンクタンク機能</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本が核不拡散について技術的な面から目を光らせていることが、日本の外交・原子力政策にソフトパワーを持たせることになる。 ・ 技術的なことだけでなく、政治的なことも勘案した総合的分析力を持つことが大事である。 ・ 核不拡散の問題は基本的に国家の意思の問題。国家の意思が変われば全体構成も変わることを意識しておかなければならない。 <p><u>ホームページ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページは、産業界、文科系の人体系的に勉強できる機能、核不拡散の諸問題に関するアップデートされたリファレンスの機能、日本の立場の発信機能を持たせて欲しい。 <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センター独自の見解を示せるよう、核不拡散センター内での議論を自由闊達にすること。 	<p>方針を立てて、核不拡散技術の開発を進める。</p> <p>技術的な視点と政策的な視点を併せ持つマルチな人材の育成を目指す。具体的には、国内の関係機関との情報交換の場で機構の考えを示して連携を働きかけている。また協力関係にある国際原子力専攻の学生に保障措置の現場教育を実施する等行っている。</p> <p>総合的な分析力を持ち、技術的知見に基づく政策研究を進めていく。</p> <p>ご指摘頂いた機能を持たせるようホームページの改良を図る。</p> <p>自由闊達な議論ができる環境を作っていく。</p>